コミ男さんとナシ男さんの ほのぼの劇場 ③

ナシ男さん「あんしん広場」に参加を始めて明るく元気になったのぉ

コミ男さんに誘うてもろうて良かったよ。毎回、皆と畑の話や孫の話をしたり、体操したり、運動もできて楽しいて最高じゃわい。
若返った気がするで。

「あんしん広場」は、友達もおって、認知症や要介護状態にならん為の、わしらの学校じゃの。

地域の皆と仲良くなって、家に帰っても、身近に話ができる人が、よーけおると思うたら、安心して生活できるわい。
ありがたい、ありがたい。

みんなが、ナシ男さんのようになれば、えーことやなぁ。
なかには、お世話係さんが、毎回、何度も何度も誘いに行っても、来んかった人がおってな。広場の場所も、その人の家のすぐそばやったんやけどな。
来ても少しおったら、知らぬ間に家に帰っていたり、皆が持ち寄ったお茶菓子を頂くのに、とても遠慮したりと。
そのうち、お世話係さんも誘いに行く足が遠のいていったんよ。

それで、どうなったんな？

その人は、一人暮らしで、近くの町に住む子どもさんが来て、よー面倒みてあげていたんやけどな、よー出来すぎていて、何もかも子どもさんがしてあげていたようや。買い物もしてきてくれる、家事もしてくれる、ほとんど地域の人とは交流せん。

それで？

そのうち、認知症を発症したんや、だんだん、進行してなぁ、今ではかなり進んでいるようじゃ。家のガスは安全の為、子どもさんが切っとる。
最近は、道に出て車の前に立って走行を妨げたり、家の新聞が盗まれたと近所の家に来たり、かなり認知症が進んでいるようじゃ。

高齢になったら、認知症は誰がなってもおかしくないけど、できるだけ、そうならんように自分にできることは、楽しんで取り入れるようにせんといかんのぉ。
コミ男さんに「あんしん広場」に誘うてもらわなんだら、わしも認知症を発症しとったかもしれんのぉ。コミ男さんに感謝じゃ。
「あんしん広場」で健康寿命を延ばし、地域の絆で見守ってもらえ、安心なまちじゃ。

★次回「ほのぼの劇場④」は、はつらつと健康寿命を延ばしている、おばあちゃんのお話です。

三谷きずな号 No.4

令和４年６月１日
編集・発行
三谷地区コミュニティ協議会
地域福祉ネットワーク会議

支え合い　温もりのある三谷町　「声かけ 見守り活動」実施中

★「声かけ・見守り」がなぜ重要なのか★

「地域でともに進める見守り活動」って何をするの？

- 特別なことをする必要はなく、あなたの周りの見守りが必要な人に、それとなく目を配るだけで大丈夫です。何か異変に素早く気付くことが大切なのです。
- 隣近所の人と、日頃から挨拶をかわしたり、話をすることで、今日も変わらず元気なことが確認できるのです。

なぜ見守りが必要なの？

超高齢化社会になることで、医療・介護・福祉サービスの需要が高まり、社会保障の財政バランスが崩れ、若い人の負担が非常に大きくなります。また、医療機関や介護職員不足による施設への入所が困難になり、自宅での看取りが増えざるを得ない状況となります。

「年を取ったら住み慣れた地域、住み慣れた家で暮らせるようにしよう」という地域包括ケアシステムが必要になってきます。

見守りが必要な人ってどんな人？

一人暮らしの高齢者
高齢者のみの世帯
在宅介護など

いつもと違う（異変）ってどんなこと？

- 郵便物や新聞がたまっている
- 電気がつけっぱなし、夜になっても消えない
- 洗濯物が干しっぱなし
- 日中でもカーテンや雨戸が閉まりっぱなし
- 異臭がする
- 家の中や周りに物が置いたままになっている
- 電話や訪問に応答がなく、外出もしていないよう
- 最近、元気がない、様子がおかしい
- 必要な福祉サービスを利用していないよう

見守りがどんな効果をもたらすの？

- 孤立が予防でき、異変に気づきやすくなる
- 在宅介護の方も悩みを相談でき、安心して介護を続けられる
- 見守られる方の不安を解消し、精神的に大きな支えとなり、住み慣れた家で安心して暮らせる
- 災害時における住民同士の助け合いも円滑になる

住み慣れた土地で、なじみの人間関係の中で、人生の終焉を迎える。最後まで尊厳ある生であるよう「地域包括ケアシステム」が必要になってきます。
その中で、*一番身近に出来ることが「声かけ・見守り」*です。その為には、住民の意識、喜怒哀楽を共有できるような絆でむすばれていること、*日頃からの隣近所とのつながりがとても重要なのです。*

地域福祉ネットワーク会議って何？

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、関係機関で情報共有や連携を図り、地域住民の協働による生活支援等サービスの体制整備を推進しています。

地域福祉ネットワーク会議にはどんな人が参加しているの？

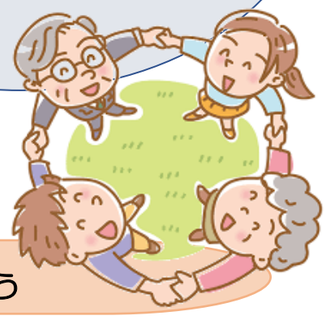
コミュニティ協議会の役員
（総務部・福祉保健部・防災部・あんまち部など）
地区民生委員児童委員・主任児童委員
三谷町渓泉会　なでしこ香川
高松市地域包括支援センター
高松市社会福祉協議会

高齢化社会で安心して暮らせる仕組みづくり

具体的にどんな事をしているの？

- 地域で支える仕組みづくりについて住民への周知
  （説明会・チラシ配付・横断幕など）
- あんしん広場への参加呼びかけ
- 買い物支援事業への取り組み
  （令和３年度モデル地区で実施）

地域福祉ネットワーク会議の取り組み



安心安全のまちづくりは、共感と共通認識をもとに、みんなが一丸となって日々つくりあげていかなければならない

地域のみんなのつながりの輪を広めていきましょう

高松市では「あんしん通報サービス事業（旧緊急通報装置貸与事業）」をおこなっています。
詳しくは三谷コミュニティセンターまでお尋ねください。

声掛け・見守り活動の現状と今後の取り組みについて

している事

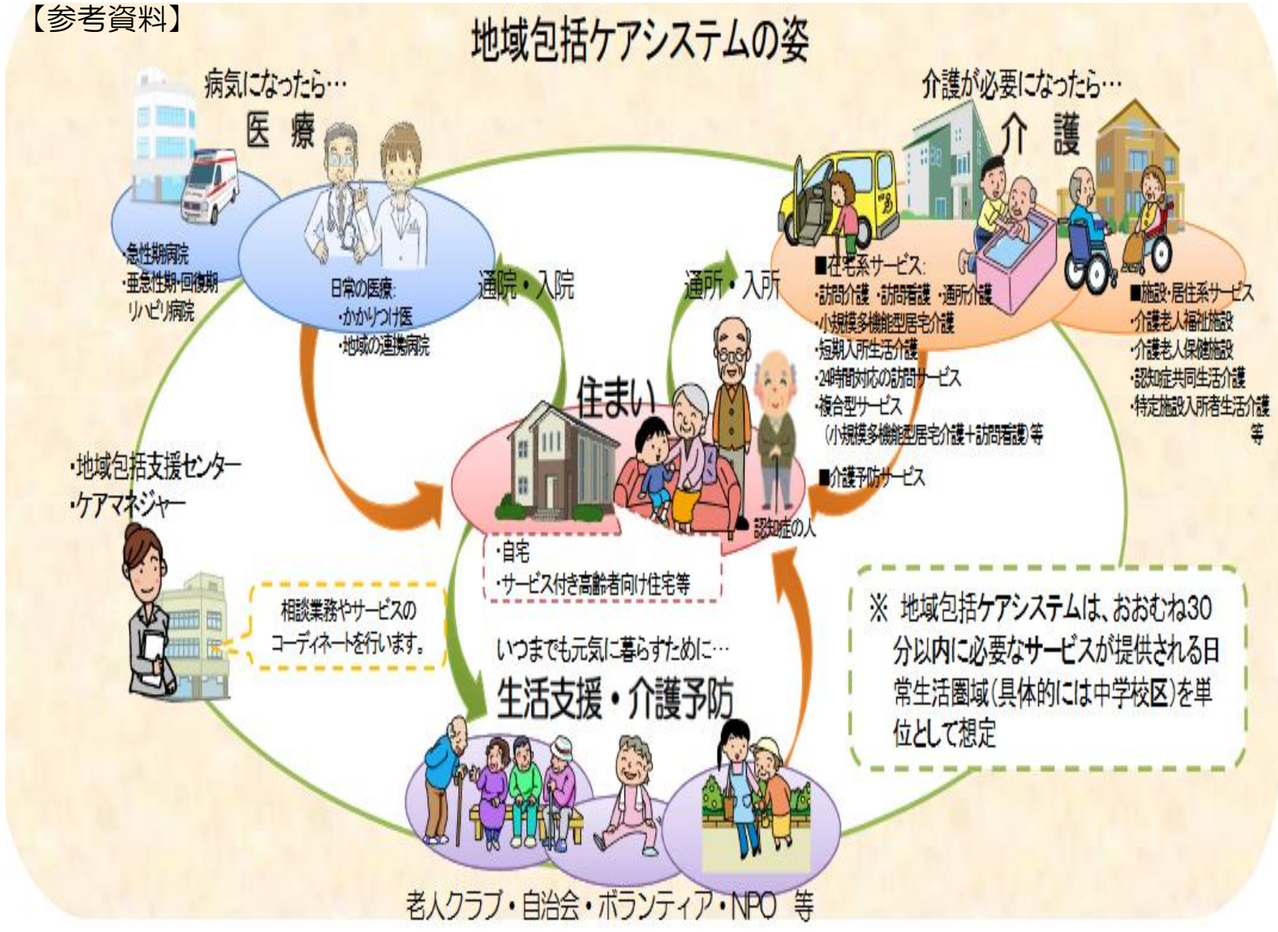
- 住民同士のネットワークで見守りの必要な人を把握している
- 家と家の間に距離があるので、工夫して集まれるような機会を作っている
- 移動スーパー利用時を活用して、話をするなど、お互い自然と見守りができている
- 自治会の定例会で、安否確認、情報交換をしている
- 「あんしん広場」で情報収集して安否確認をおこなっている
- 一人暮らしの方は、特に気にかけている
- 近所の方に野菜を配ったり、一人暮らしのお宅の火災報知器を設置したり、草刈りをして、日々見守りしている。

困っている事

- 自治会に加入していない人は分かりにくく、関わりも少なくなっている
- 自治会を脱会する人が増えてきて、自治会活動で集まる機会がなくなっている
- 一人暮らしの方の家に訪問するのは難しい（表に出ている時は声かけする）
- 何も用事がなく、のぞくのは不自然な感じがして行きにくい

これからの取り組み

- なぜ「あんしん広場」や「見守り活動」が必要なのか、もっと周知をする
- 自治会の班単位など小さなグループごとに交流を持ち、お互いを見守り合う具体策を提示する
- 自治会を退会しないようメリットを知らせていく
- 「地域の中でお互いに絆をつくる」気持ちが定着し、みんなに浸透して自然にできるまで、その必要性を呼びかけ実行すること、やり続ける事が大切
- 各自治会で、皆に適した方法で見守りを行う

【令和４年５月26日地域福祉ネットワーク会議より】

【参考資料】